

首都圏などに住む大槌町出身者、大槌にゆかりのある人で構成される、「ふるさと大槌会」が、記念すべき創立30周年を迎え、11月11日、東京都内のホテルを会場に総会を開催しました。

会には約130人が出席し、東海大学文学部の兼平賢治氏による講演「前川家と盛岡藩政」の修復された前川家文書から」と題した講演に耳を傾けました。この講演は、30周年を機に、自分たちのルーツである大槌の歴史について改めて学び、郷土への想いを深めようと企画されました。

懇親会の部では、大槌町のフラダンスサークル「マカナ・アロハ」や、おおつちバラエティショーの面々が会場を沸かせました。

1987年に発足したふるさと大槌会は、東日本大震災津波で会員名簿が流失。その後、保管されていた古い名簿をもとに、会員の皆さんが声掛けを行い、現在は450人を超える会員で組織されています。震災後には、ふるさと大槌会復興支援基金を設立し、町の小中学校などに寄付をするなど、町に対し、暖かい支援を続けてきました。現在では、大槌町派遣職員の方々が、派遣元に帰った後、ふるさと大槌会に参加するなど、様々な大槌ゆかりの人々が会を盛り上げています。

会場には、大槌弁が飛び交い、参加した皆さんは、懐かしい響きに笑顔を見せながら、ふるさとを思い出していました。

# ふるさとに 寄り添う

ふるさと大槌会が創立30周年を迎えました。都会の真ん中で飛び交う大槌弁。30年間紡がれてきたふるさとへの想いがそこにはありました。



1 30周年の節目に編集された記念誌 2 ふるさとの歴史を改めて学ぶ  
3 新沼謙治さんの曲「ふるさとは今もかわらず」にのせて踊るフラガール

## ふるさとを

# 忘れない

10月、町に届いた一通の手紙。そこにはふるさとの思い出と、離れた地で大槌の名前を見つけた時の喜びが、気持ちのこもった文字でつづられていました。

### 三陸縦断駅伝競争の思い出

花巻市在住 <sup>かま</sup>鎌田 <sup>た</sup>薫 <sup>かおる</sup>さん (旧姓藤原)



昭和39年10月、日本国民が奮い立った、あの感動の第18回東京オリンピックが終わってまもなく、釜石～宮古間の駅伝競争がひっそりと行われました。大会直前に近所の出場予定選手が走れなくなり、私が大槌体協の一般の部で出場することになりました。当時高校3年生だった私が任せられたのは、大槌～吉里吉里間の6キロ。大槌町役場前の第3中継所でタスキを待っていると、大槌チームが最後から2番目でやってきました。汗のしみこんだタスキを受け取り、安渡の町に入ると、両側からは熱狂的な応援。バケツをたたく人、ホウキを回す人、「大槌ガンバレ!」「早く行け!」その気になり能力以上のスピードで走り、赤浜に入った時は疲れて足が動かなくなってきました。吉里吉里坂を登って行ったところで後続に抜かれ、脱水症状の私はどうどう歩きました。20メートルぐらい歩き、伴走車から水をもらい、もがき苦しみながら、タスキを渡すことができました。1人ならやめていたかもしれません。チームのために、走れたのだと思います。最終区、宮古市内では、高校チームと大接戦を繰り広げ、ゴール直前で前に出てゴールしました。約40分前にゴールした選手から聞いた、「大槌、今、来た!」あの言葉は、忘れません。今から53年前、ピンチヒッターとして走ったあの駅伝が、生きる糧となり、私の心の財産です。それから駅伝を見るのが好きになり、今年9月、花巻市で行われた中学駅伝大会に「大槌学園」が参加していたのが嬉しく、男子、女子チームに声援を送りました。私のふるさと大槌! 全国豊かな海づくり大会当時の、元気で活気のある大槌町になりますよう、祈念いたします。

## 全てが素晴らしいわが故郷

鎌田さんを訪ねると、満面の笑みで嬉しそうに答えて下さいました。鎌田さんは現在70歳。花巻市に住んで40年以上になります。ご自宅は、大槌の木材で建てたそうで、「この階段は、小槌の山のケヤキですよ」とにやり。「花巻に来てからの方がはるかに長けれど、大槌は私のふるさと。空気、水、食べ物、全てが素晴らしいです。大槌の子供さんたちが来て本当に嬉しくて、全員に声をかけて応援してしまいました」

ふるさとを離れても大槌を愛し、生き生きと語る皆さんの姿は、私たちの町が唯一無二の存在であることを教えてくれます。

### 「愛しきふるさと」への手紙を募集します

広報おおつちでは、今回ご紹介した「ふるさとへの手紙」を皆さまから募集します。思い出の風景、出来事や、懐かしい友人への言葉などとともに、大槌町への力強い応援メッセージなどお待ちしております。

- 文字数の目安 600字程度
  - 送付の方法 住所、氏名、電話番号をお書きの上、郵送または電子メールでお送りください。
  - 宛先 〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町上町1-3 大槌町総合政策課  
広報「ふるさとへの手紙」担当 あて
  - メール sougouseisaku@town.otsuchi.iwate.jp
- ※広報掲載はお約束できませんのでご了承ください。



ふるさと大槌会 会長  
かね ざき ゆう ざぶ ろう  
金崎 雄三郎 さん

### 町のコンセプトを理解し寄り添っていきたい

大震災後の名簿流失から、現在の会員数が約450名にまで増え、今回創立30周年を迎えられたことは大変うれしく思います。その中で、大槌町に派遣されていた方や、仕事で大槌と関わりを持った方々が参加してくれて、大槌をふるさとのように感じてくれていることは大変ありがたいことです。

我々ふるさと大槌会の役割というのは、「ふるさと」という共通の存在を通して、人の気持ちをつないでいく事だと思っています。町行政の立場や、コンセプトを理解したうえで、寄り添う形で力になっていければと考えています。また、若い方々にもどんどん会に参加していただき、大槌からやってきた若者たちに、色々な形で力になることができれば素晴らしいですね。

就任9年目の創立30周年を機に、ふるさと大槌の文化的伝統を今一度振り返り、当会として新たなふるさと大槌の構築に寄与する努力をしてまいりたいと思います。